

流対象海域（与勝海域）及びその周辺のタイワンガザミの漁獲量は各漁協の水揚げ台帳から調べた。調査した漁協は、与那城、勝連、沖縄市、与那原の4漁協（図15）で、前3者は全水揚げについて、与那原はカニ刺網漁民5名の水揚げについて集計した。

また漁場図作成のため500mメッシュを書き込んだ操業日誌への記録を与那城漁協、勝連漁協に依頼した。与那城漁協では7月1日～8月31日の2ヶ月間、勝連漁協では7月1日～14日の2週間の操業記録が得られた。なお、この海域でのカニ漁業は刺網を使用している。

## 2 漁獲量

統計資料によるとタイワンガザミはカニ類の項目に入れられている。このカニ類にはタイワンガザミの他ノコギリガザミ、ジャノメガザミ、シマイシガニ、ワタリシガニ、アサヒガニなどが含まれているが、大部分はタイワンガザミである。1975年以降の沖縄県のカニ類の年間漁獲量をみると、1975、76年は42～60tであったが、1977年以降は1980年の126tを除くと70～100tと比較的安定的だった（図21）。

カニ類の漁獲量を地区別にみると、平良市、豊見城村、勝連町、与那城村などで多く漁獲されている。勝連、与那城両地区の1980～82年の年間漁獲量は13～27tで全県の14.6～21.4%を占めている（表17）。

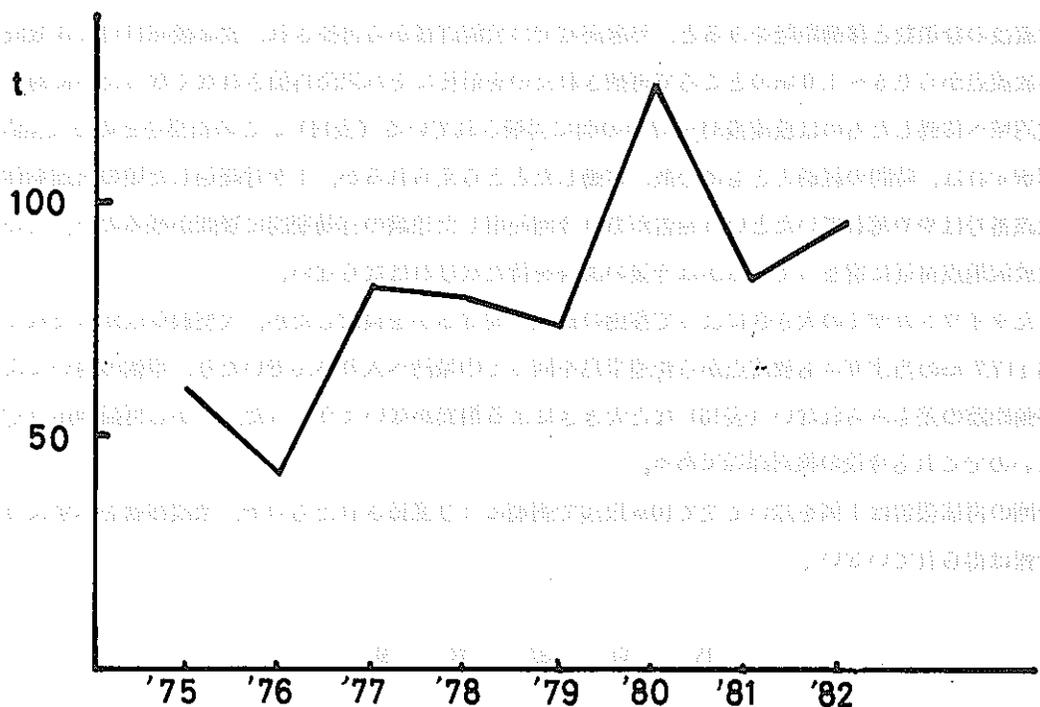


図 21 沖縄県のカニ類の年間漁獲量